

## 令和5年度第1回交野市図書館協議会 議事録

1 日時 令和5年6月27日(火)15時から16時10分

2 場所 交野市立青年の家2階 会議室

3 出席者

(1) 委員 木下会長、中嶋副会長、有山委員、今堀委員、内山委員、北井委員、栗原委員、島田委員、竹田委員、恒松委員、苗村委員、西岡委員、久田委員、松井委員  
(欠席:向井委員)

(2) 事務局 北田教育長、福田課長、原田課長代理、和田係長

(3) 傍聴者 なし

4 概要

(1) 開会

(2) 辞令書交付

(3) 教育長挨拶

ご多用中の出席、委員の受任についてお礼申し上げます。

今、チャットGTPや生成AIなど、人工知能が文章を書いたり質問に答えたりする能力が高まり、今後はもっと国民生活の中に入り込んできて便利になるだろう。

だが、便利だがAIの時代になれば、今度はそのAIの答えが正しいか判断できる能力が人間には求められる。だからこそ、人は根拠となる考えを持っていないといけない。その根拠となる自分なりの思想を持つ手段の一つが読書だと考える。

そんな社会の変化の中、この協議会で意見を賜り、昨年3月「第4次交野市子ども読書活動推進計画」を策定した。

それに基づき、様々な取組みを行った結果、昨年度のイベント参加者数は前年度の2倍となった。また、昨年度の図書館の貸出冊数・利用者数はともにコロナ禍前を上回るものとなった。

今年度は、赤ちゃんタイムの実施や返却ポストの増設について考えている。また、星田では家康関連の本をそろえたコーナーを設置したり、先日は倉治で「交野機織り教室20周年記念展」に合わせて、展示会場入口に「機織り」「染物」などの本のコーナーを設け、記念展を盛り上げた。

今後も、交野の未来を担う子どもたちへの読書活動推進、そして魅力のある図書館づくりをめざしていきたいと考える。

そのために、これから委員皆様方の忌憚のない意見、感想、また提案などをお聞かせいただきたい。

(教育長退席)

#### (4) 配布資料の確認

事前配布資料：交野市立図書館条例

交野市図書館協議会委員名簿

交野市立図書館令和4年度事業報告

交野市立図書館令和5年度事業計画

第4次交野市子ども読書活動推進計画 進捗状況表

当日配布資料：次第

交野市立図書館年報（令和3年度版）

（参考）年齢別利用者数

#### (5) 委員出席状況報告

事務局：本日の委員出席状況について報告する。

委員15名中14名の出席で、交野市立図書館条例第4条第6項第1号により会議は成立。

会長、副会長の選出をしたい。立候補者はいないか。いないようであれば、昨年度まで会長として協議会をまとめていただいた木下委員を事務局から推薦したいが、いかがか。

（異議なし）

会長は木下委員に。副会長はいかがか。立候補者がなければ、事務局から同じく中嶋委員を推薦したい。

（異議なし）

では、会長は木下みゆき様、副会長は中嶋智子様をお願いする。一言挨拶を。

会長：コロナから3年、対面での事業も復活し、教育長挨拶にもあったが、コロナ前よりも利用が増えているとのこと。いったん離れてしまうことで、利用者と図書館との親和性の低下を懸念していたが、嬉しい報告だった。一方で、他図書館もだが、コロナ禍においてweb予約が浸透、急激に増加した。図書館の新しいサービスを知ってもらう機会にもなったと考えると、コロナをポジティブに捉えることもできると思う。

今日も皆さまから様々なご意見、提案をいただきたい。

副会長：えんがわ文庫で活動をして、今年で50年。自分の子どもが世話になって、本に出会い、体験したこと、自分が感じたことを地域の皆さんに伝えたいと思い、世話人を続けている。ここまで続けてこられたのは、図書館の支援のおかげであり、感謝している。今後も頑張っていきたい。

事務局：ここから議事進行を会長に渡したい。

会長：次第「4 令和4年度事業報告」「5 令和5年度事業計画」について事務局から説明を。

(6) 令和4年度事業報告について(事務局より資料に基づき説明)

事務局：前年度から変動のあった部分を中心に報告する。

3頁「3 組織と職員配置」について。令和4年4月の人事異動に伴い、課内異動を行った。そのため、倉治図書館と青年の家図書室の職員数に変更があったが、職員総数に変更はない。

4頁「4 図書館の推移」として、(1)利用状況等の過去5年間の推移を掲載している。令和4年度の詳細は後の頁にあるので、ここでは特に「個人貸出冊数(広域含)」をご覧いただきたい。令和4年度の470,779冊という数字がコロナ禍前の平成30年度の数値をも上回るものであることがわかると思う。また、この頁に記載はないが、利用者数についても同様にコロナ禍前の数値を上回る結果となった。

また、同表の予約冊数についても令和元年度以降、年々増加を続けており、web予約については過去10年間増加を続けている。

5頁「(2)継続行事参加者等の推移」についても、コロナ禍で設けていた様々な制限を緩和し、イベントの充実を図った結果、「合計参加者数」が大幅に増加したことがわかる。

同頁下の表「(3)主な決算額の推移」は、令和4年度決算がまだ確定していないため、未記入となっている。

6頁からは「5 図書館の利用状況等」となっており、「(1)利用統計」は先の頁で説明した貸出冊数、利用者数の統計。

「(2)その他の利用」では開館日数・予約冊数のほか、文献複写や新聞・雑誌の所蔵タイトル数をご覧いただける。同表の「読書室利用」は、青年の家図書室に設けている読書室(自習可能な部屋)の利用だが、これもコロナ禍の臨時休館や座席数の削減があった前年度に比べ、1,855人増加となった。

「(3)団体貸出」についても、全体で4,056冊の増加となった。

7頁「(4)録音図書借受点数」合計122点は、前年度比49冊の増加。

「(5)広域事業」は北河内の市民が7市すべての図書館を利用できる制度だが、他市の統計がまだ出そろっておらず、空欄となっている。交野市における他市民への貸出、利用者数はともに前年度より減少している。

8頁「(6)相互貸借」については、借受冊数、貸出冊数とも前年度より増加している。「(7)自動車文庫ステーション別利用統計」は、利用者数は増加したが、貸出冊数が減少という結果となった。

10頁から13頁が「6 年間行事等の実績」となる。

「(1)おはなし会」については、コロナの影響による中止等もなく、前年度からの定

員削減を緩和したことから、全館（室）において参加者が増加した。

11 頁「(2)おたのしみ会」については、よみきかせボランティアとの協働により、星田会館図書室において、初めて実施することができた。

「(4)講座等の開催」では、初の市民対象「ホームページ活用講座」「図書館バックヤード見学」を実施した。昨年度協議会にて、「大人向け、高齢者向けの取組みの充実も」という意見をいただいていたが、その点で、一つクリアできたのではないかと思う。また、前年度までの「学校図書館ボランティア講座」に替わり、広く市民を対象とした「絵本学講座」を実施した。

12 頁「(5)リサイクル・フェア」は、これもコロナの感染状況を見ながら定員を緩和し、開催時間を延長したこと、web 申込みを導入したこと等により、前年度の 2.5 倍以上の参加者数となり、譲与冊数も大幅に増加した。

「(6)高齢者・視覚障がい者サービス」として、青年の家図書室大活字図書コーナーの充実のほか、ここに記載はないが、LL ブックや点字図書、録音図書の受入れも行った。

「(7)図書のテーマ展示」については、各館（室）において、毎月様々なテーマで特集コーナーを設置した。

13 頁「(8)職員出前講座」については、前年度は依頼を受けながらもコロナの感染拡大により中止となった会があったが、4 年度はすべての依頼について実施することができた。

14 頁は「7 学校等への支援と連携」。これもコロナ禍で途絶えていた訪問おはなし会や図書館見学の依頼が再開し、久しぶりに多くの小学生の笑顔に出会うことができた。また、「(4)認定こども園等への自動車文庫（ブンブン号）乗り入れ」についても、前年度より 3 園多い 13 園から依頼をいただき、897 冊の貸出を実施した。

15 頁「8 関係ボランティア団体等の活動と連携」について。「(1)地域家庭文庫」は、現在 5 文庫が市内で活動。図書館からは新刊本の提供を行っているほか、ストーリーテリング研修会を共催、図書館職員も参加し、ともに学ぶ機会となっている。本協議会にも 2 名、委員として出席いただいている。

16 頁「(3)朗読グループあい」からも本日、出席いただいている。青年の家図書室での対面朗読は、令和 2 年度以降、依頼者の減少により実施できていないが、録音図書（デイジー図書）を作製していただき、図書館で所蔵・貸出を実施している。

このほか、「(2)おはなしぐるーぷKIRARA」や「(5)よみきかせサポーター」と協働で、各館（室）でのおはなし会やおたのしみ会を実施した。また、よみきかせサポーターが中心となって、岩船小学校で新たな学校図書館ボランティアが発足するなど、これまでの取組みが、ボランティア同士の連携や活動の広がりにつながった。

17 頁。「9 第 4 次交野市子ども読書活動推進計画」に基づき、様々な事業を実施した。詳細はこの後、同計画の進捗状況として報告する。

「10 交野市図書館協議会」については、昨年度は 1 回開催した。出席いただいた皆様に感謝する。

18 頁「11 まちの図書館化事業」は、前市長戦略の取組みとして始まったものだが、令和 4 年度も 23 カ所が継続稼働しており、それらの施設等に本の補充・入替を行った。「12 雑誌スポンサー制度」は、4 年度は 1 社より 4 誌の提供を受けた。

以上、令和 4 年度事業報告とさせていただきます。

事務局：当日配布資料「(参考)年齢別利用者数」について補足させていただきます。

昨年度協議会において、委員より年齢別の統計があればわかりやすいのではないかという意見をいただいた。それがこの表になる。このほか、地区別、曜日別など様々な形で統計を出すことは可能だが、他とのバランスやスペースの関係で事業報告にはそこまで掲載していない。ご了承いただきたい。

#### (7) 令和5年度事業計画について(事務局より資料に基づき説明)

事務局：「1 資料の収集・提供」について

高齢者、障がい者、日本語を母国語としない人なども含めたすべての人が読書に親しむことができるよう、大活字本や点字本、LLブック、多言語絵本など様々な形態の資料整備を進める。また、交野市に関する地域資料の収集、提供、保存について、持続可能な体制づくりに取り組む。そして、市内に設置した「まちの図書館」の資料の補充や入替を行うことにより、除籍した資料の有効利用を図ると共に、地域の読書活動とコミュニケーションの推進に努める。

「2 図書館情報ネットワークシステムの充実」事業について

インターネットサービスの利便性について利用者へのPRを強化し、利用促進を図る。また、図書館情報ネットワークシステムを活用した業務の効率化を図り、図書館サービスの充実をめざす。

「3 図書館利用窓口の充実」について

利用者数、貸出冊数の伸び率が高い星田会館図書室について、人員体制の強化を図る。また、倉治図書館電気・機械設備等改修工事に伴う臨時休館中においても、移動図書館車の活用等、市民サービスの低下を防ぐ方策を検討し、可能な限りのサービス維持に努める。

この倉治図書館電気・機械設備等改修工事は、交野市公共施設 20 年設計・改修・修繕計画に基づくもので、老朽化する空調設備及び受電設備の強化等の改修を行うもの。工期は 6 月 2 日～11 月 30 日までを予定しており、そのうち 10 月・11 月の 2 ヶ月間は臨時休館を必要とする工事となる。そのため、臨時休館中の代替サービスとして、移動図書館車(ブンブン号)の通常巡回以外の時間帯に敷地内車庫にて、ブンブン号での貸出・返却・予約本受け渡し等の実施を考えている。また、市のイベントへのブンブン号での参加(そこの貸出、おはなし会等の実施)を検討する。

もう一点、図書施設以外への返却ポストの設置を検討し、利便性の強化を図る。

#### 「4 子どもの読書活動推進」事業について

「第4次交野市子ども読書活動推進計画」に基づき、家庭・学校・地域と連携し、子どもの読書活動の普及と啓発、読書環境の整備に努める。また、赤ちゃんタイムの実施や子ども向けイベントの開催など、子どもと読書を結びつける機会が豊かになるよう、さまざまな取組みを行う。

「赤ちゃんタイム」は、乳幼児とその保護者が気兼ねなく図書館利用ができる時間帯を設定するもので、ベビーファーストの理念にも沿うものとする。対象者への周知とともに、それ以外の一般利用者へも丁寧な周知により理解を求めていく。

#### 「5 市民協働の推進」事業について

子どもや障がい者の読書活動を推進するために、さまざまな活動を行っている市民ボランティアグループとともに、おはなし会や各種イベント、障がい者への情報提供等において、より一層の連携・協働を図る。

#### 「6 図書館・図書室の運営」として

「交野市立図書館運営方針」に基づき、効率的な図書館運営に努めるとともに、より質の高いサービスの提供をめざす。また、倉治図書館電気・機械設備等改修工事により、快適な読書環境の整備に努める。

最後に、もう一点、ここには記載していないが、今年度初めて取り組む事業として、摂南大学に新設された現代社会学部との連携がある。単位認定対象の選択科目「FAL:フィールド型アクティブラーニング」として参加する学生と協働で、読書振興、読書活動推進、図書館利用促進を目的としたイベントを実施する予定。

令和5年度の事業計画は以上となる。

会長：令和4年度の事業報告、5年度の事業計画についての説明があった。

質問や意見など、どなたからでもご自由に。随所に利用増加がみられたが、気付いたことなどあれば。

8頁「相互貸借」について、他市への貸出、借受冊数が出ている。大学で、入学が決まった学生に、入学前教育として課題図書の中から1冊読んでレポートを書くという課題を課しているが、今年ショックだったのは、「課題図書のすべてが近隣の図書館に1冊もなく困った」という学生がいたこと。司書に声をかけずに諦めて自分で購入したらしいが、相互貸借システムを知らない人が多いことに改めて気づいた。図書館同士がネットワークでつながっていることについて、もっとPRが必要。その場がない資料も取り寄せて借りることができることを知ってもらうことで、もっと図書館のファンが増えるのではないかと感じた。ご検討いただきたい。

委員：参考資料「年齢別利用者数」統計を見ると、70歳以上が25%で一番多い。15歳以下は12.8%、その親世代も同程度だが、16~29歳が3.7%。図書館サービス

を維持していくうえで、このデジタル世代に図書館をいかに知ってもらうかが大事。若い世代に図書館を知ってもらい、その世代が親になった時に、またその子どもに図書館を知ってもらう。その循環を作っていくしないと、人口が減っていく中で図書館の利用者数も減っていく可能性が高い。図書館としてどう対策していくか、課題として持っておいてもらいたい。

会長： ヤングアダルトコーナーなども設置されているが、事務局から今の提案について何かあれば。

事務局： その点に関しては、考えていかなければならないと思っているところではある。

今年度、摂南大学現代社会学部との連携という機会を得た。若い世代、図書館利用の少ない世代と接点を持つことができるこの取り組みを活かし、学生の意見を取り入れながら、対策を考えていきたいと思う。そして、それを継続していければと考える。

会長： 摂南大学との連携事業の報告も楽しみにしている。

続いて、次第「6 第4次交野市子ども読書活動推進計画 進捗状況」について、事務局より報告を。

#### (8) 第4次交野市子ども読書活動推進計画 進捗状況について

(事務局より資料に基づき説明)

事務局： 令和4年3月に第4次交野市子ども読書活動推進計画を策定した。策定に際しては、本協議会においてもご意見を賜り、感謝する。本計画の実施期間は2022年度から2026年度、令和4年度から9年度の5年間となっている。

初年度令和4年度の進捗状況について、「新規」「充実」とした事業について、また、評価「D:少しはできた」以下と「A:目標を大きく上回ってできた」の取組みについて説明する。

##### 1 頁「1 家庭における子どもの読書活動の推進」について

新規事業「⑥子どもが集う場所での児童書の充実」を「C」とした。子育て支援課からの情報をいただいたが、図書館から子ども食堂への働きかけがやや弱かったという評価。本を読む機会の拡充として、ボランティアグループとの共催で「えほんのひろば」を倉治図書館で2日間行い、たくさんの家族連れの来訪があった。絵本のある空間や作品に興味のある市民が多いと認識。引き続き取り組んでいく。

新規事業「⑦赤ちゃんタイムの実施」は「D」。8月に府内アンケートを行い、対象43市町村、回答37、うち参考となる有効回答14であった。この結果を分析し、検討するにとどまったため、評価を「D」とした。新規事業であるため、市民周知を行い慎重に進めていきたい。

「図書館利用の整備」も新規事業で「D」。計画策定時の市民アンケート、特に幼保保護者からの、本を返却しやすい環境整備について要望が多かった。予定どおり、人が集まる場所での設置に向けて進めていく。

2 頁「2 学校等における子どもの読書活動の推進」「(1)認定こども園・幼稚園・保育所等の役割と取組み」について

「③私立認定こども園、幼稚園の絵本蔵書の充実」は「A」とした。ブンブン号の夏季乗り入れ、11 園停車、13 園 675 冊貸出(+4 園 140 冊増加)うち新規 1、復活 2(令和 3 度 9 園 535 冊)(令和 4 度 全体 13 園 15 園参加 897 冊)。アンケート様式を変更した際、希望するテーマの本のほか情報収集ができた。

「⑤幼稚園教諭や保育士に読み聞かせ講習会」は、ニーズの把握ができなかったため、評価を「D」とした。

「⑦認定こども園や幼稚園等向けに乳幼児期の絵本の紹介」は、具体的な業務に取り掛かることができなかったため、評価を「D」とした。

3 頁「(2)学校の役割と取組み」については、すべて「B 評価:目標どおりできた」となっている。このことは、現場での学びあいサポーターの存在、その方々と協力される教員、巡回便、資料依頼および受け取り、定例会での情報共有や交流等の地道な積み重ねがあつてのことと認識している。教員自ら、授業に間に合わせたいと依頼した資料を取りに休日に来館ということもたびたびあつた。図書館は授業や学級文庫等の選書、資料提供等、学習機会の充実を目的に、引き続き学校支援を行っていく。

4 頁「3 地域における子どもの読書活動の推進」について

「①地域家庭文庫や読み聞かせ等のボランティア団体との連携・支援」は「A」。星田会館図書室でのおはなし会を開始し、毎回 10 人程度の定着した参加があつた。このことから、星田会館図書室において「おたのしみ会」を初めて開催した。工作教室である「おたのしみ会」を夏は倉治とこども、冬は星田会館図書室、春は青年の家図書室と、長期休暇期間に各図書室で開催することができた。人数制限がある中、70 名の参加があつたため、今後も充実させていきたい。また、地域家庭文庫、ボランティアグループとの研修やイベントの共催等も定着している。図書館からの支援、連携や交流が円滑にいつていることと判断できるとして評価を「A」とした。

「④子どもの読書に関連した各種講座開催」は新規事業で「A」。「よみきかせサポーター制度」からの移行として、対象を市民へ変更、「絵本学講座」を開催したところ、多くの申込み(55 人)があつた。アンケートからはほぼ 100%の方が満足と回答されたことから評価を A とした。引き続き学びの場を提供していく。

「5 子どもの読書活動の普及啓発活動」について

「①本の森プロジェクト」は、その実態がつかめず「E」評価とした。市民団体との連携や可能性について模索していく。

5 頁「4 市立図書館における子どもの読書活動の推進」について

「①図書館システムの機能を活かした児童向けサービスの向上」は、リンクの充実、カテゴリズの更新にとどまったため、評価を「D」とした。ブックリストのデータ化により、読み聞かせや選書等、活用が多角化することを目的に進めていく。



「③読書に障がいのある子どもへの支援」は充実事業で「B」。点字絵本、LLブック、英語絵本を全館に設置した。また、「読書を助けるいろいろな本、資料」をテーマに特集コーナーでの啓発を行った。図書館内での啓発は利用者の「知る」につながりやすいため、資料整備と共に啓発にも努める。

新規事業「⑤ヤング・アダルト図書コーナーの設置」は「B」とした。小学校高学年から高校生 12～18 歳くらいまでを図書館用語で YA というが、読書や図書館離れが多い世代。YA 向けの出版が増えている中、どう読書につなげていくか、当該世代の意見を参考にしながら充実に努める。利用の多い星田会館図書室での YA コーナーの新設を予定。

最後に、1 頁「1 家庭における取組み」の最初の「ブックスタート事業」について。継続事業「B」評価で、取り上げる対象ではないが、実際に健康増進課主催の 4 か月児健診に参加していて、ブックスタートで赤ちゃんへ絵本を読むことの説明や絵本の紹介をした際のお話をさせていただきたい。

保護者の興味や意識が数年前とまったく異なっている。以前は、「絵本をもらえるの？ラッキー！何でもいいわ」という方が多かったが、最近は、「この絵本はどんな内容？」「どんなものがいい？」「上の子どももらったから今度はこれにしよう決めていた」等、保護者発信が多い。図書館の絵本ブースを素通りする方が皆無である。他市から転入されてきた家庭では、BS を「とてもうれしい」と喜んで絵本を持って帰られた。

日本では 2000 年子ども読書年から始まり、本市では平成 15 (2007) 年から開始した。当初、世の中の的に行政が絵本を配る意義についても賛否があったが、社会状況の変化とともに、「忙しい乳幼児期でも絵本を楽しむ時間をもってみて」という投げかけが徐々に深まってきたように考える。

継続は力なり、こういった積み重ねが読書活動推進であり、生涯学習としての読書につながればいいと実感した体験である。

以上、進捗状況を報告する。

令和 5 年 3 月に策定された、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第五次基本計画)」を視野に入れながら、引き続き、本計画に基づいた取組みを行っていく。

会長：質問や意見はないか。

委員：事業報告にある学校への「訪問おはなし会」でお世話になった。図書館が遠く、どの本を手にとっていいかわからないという児童もいる中、図書館から来ていただき、楽しいおはなし会をしてもらい、感謝している。公務の合間に少し参加したが、とても楽しく、紹介されていた本を購入した。ぜひまた、本校だけでなく、他校にも行ってもらいたい。

会長：おはなし会は何年生のクラスで？

委員：1～6年生まで全学年。すべてを見ることができたわけではないが、とても良い時間を過ごさせてもらった。

会長：ブックスタートの感触についての話があった。2000年に日本に伝わって、交野市では2007年から実施とのことだが、日本で始まって20周年のブックスタート協会の記念動画を見た。セカンドブックスタート、サードブックスタートという形でのフォローアップを重ねている自治体の例が出ていた。多忙だとは思うが、今後、機会があれば、市民や関係機関と協力して、そういうフォローアップをしていくことが、将来の図書館利用者の獲得へ確実につながることになると感じている。

副会長：図書館の活動や支援をありがたく思っているが、50年前と比べて司書の数が減ったうえに、業務量が全く違う。とにかく人が必要。会計年度任用職員ではなく、正規職員の増員を。50年かけて「よい本をよい読書環境を」と願って活動してきた。人と資料の充実を切に願っている。

会長：令和5年度の事業計画にも「人員体制の強化」ということが出ていた。図書館だけではどうしようもない部分もあるかと思うが、協議会として要望を上げるなど、できることがあれば、協力していきたい。

他には何かないか。

副会長：学校の現状を伺いたい。

会長：中学校ではどうか。

委員：家庭での読書時間が減少していることが課題ではあるが、中学校へは市教委から学びあいサポーターの配置があり、生徒へ直接さまざまな発信をしてくれている。学校図書館も毎日開館し、雨の日などは利用が多くなっている。事務局の話にもあったが、地道にやってきたことが少しずつ浸透していけばよいと思っている。急には変わらないので、少しずつ進めていきたい。

会長：全国学校図書館協議会が毎年、学校読書調査を行っている。30年の推移を見ると、小中学生の読書量は増えている。公共図書館、学校図書館、関係機関の地道な活動の積み重ねがあってこそと考える。残念ながら、高校生になると減っているが、コロナ禍も踏まえて30年間着実に伸びてきたことは、図書館に関わるものとして、とても心強く感じた。

文庫活動をしている立場ではどうか。

委員：文庫を利用する子どもの減少が課題。平日は学校帰りや放課後児童会としての利用があるが、土曜日に開室しても、人が来ない。子育てサロンとの連携の中で、未就園児の貸出は増えているが、保育園入園とともに減少してしまう。文庫として、どう会員を増やしていくかが問題。

文庫でも近隣の小学校へ出向いておはなし会を実施しているが、すべての小学校へは行けないので、図書館から行ってもらえるのはありがたい。

会長：「赤ちゃんタイム」の実施等においても、図書館と文庫が連携できればよいと思う。  
朗読グループの立場からも何かあれば。

委員：視覚障がい者のためのデージー図書（録音図書）を作成し、図書館へ提供している。コロナ禍で対面朗読の利用者が減少してしまったが、コロナも落ち着いてきたので、今後、増えてくることを期待する。

会長：府立図書館の立場としてはどうか。

委員：資料を見て、交野市は熱心に活動していると感じた。

中高生の読書時間の減少は、大阪府の喫緊の課題。全国的に見ても大阪府は低く、それぞれの家庭事情等もあるが、府全体として一緒に取組みをしていけたらと考えている。

府立図書館の活動についての情報提供として、児童サービス担当者会、障がい者サービスに関しても情報交換会を実施している。対面朗読の話が出ていたが、コロナ禍、大阪府立図書館ではzoomでの対面朗読を実施していた。ヘルパーを手配して来館する必要がないため、zoomにしたことで、逆に利用者が増加した。7室ある対面朗読室が埋まることもある。いろいろな方法を試している状態なので、参考にしてもらえれば。

学校へのサービスとしては、小中学校へは市町村に任せて、高校、支援学校との連携を実施している。聴覚支援学校へ手話のおはなし会の出前、東大阪支援学校へおはなし会の出前や活動する団体とつなぐといったこともしている。

YAについては、コーナーの設置、案内冊子の作成等をしているが、今の中高生は忙しい。小学生も忙しく、なかなかおはなし会にも参加しなくなった。コロナ禍をすぎても、おはなし会に参加してくれるのは主に乳幼児。どの地域も難しくなっているという印象。昔と違って、共働き家庭が多く、現状に合わせて何ができるか模索している。おはなし会に参加した子どもから手紙をもらうこともある。「少しずつ地道に積み重ねていくことが必ずつながっていく」と、現場にいた身として実感している。

会長：府立図書館は、ヤングアダルトのサイトも充実。高校生のPOPコンテストも毎年している。

委員：インスタグラムも見てほしい。

会長：以上で予定した案件は終了だが、他に何かないか。

ないようであれば、以上をもって令和5年度第1回交野市図書館協議会を終了したい。

事務局：この会議でいただいたご意見等については、図書館内で共有し、今後の図書館運営に活かしていきたいと考える。本日は長時間に渡り協議いただき、感謝したい。